

悠久同窓会会誌

悠久

阿南高专悠久同窓会



2024・春
第56号
2024年3月15日発行

発行 阿南工業高等専門学校
悠久同窓会事務局
〒774-0017 阿南市見能林町青木265
印刷 (有)山田印刷所



令和5年8月12日 山崎辰三郎氏講演会

目次

名誉会長ご挨拶
同窓会会長ご挨拶
学校だより

社会ニーズに沿った教育へ・学生の活躍 2023
学寮（明正寮）便り・一般教養便り・機械コース便り
電気コース便り・情報コース便り・建設コース便り
化学コース便り・広報情報室より・専攻科より

会員だより
近況短信・勝手に書きます！言いたい放題名作映画紹介（第9回）
赤い手帖（33）・たそがれびとの子守唄④・午後の珈琲ブレイク

会員だより
フランス国土一周 回想録（3）・3ヶ月間のアメリカ出張
悠久に寄せて - 転機 -
令和5年悠久同窓会総会
現役クラブだより
〈体育部〉 テニス部・水泳部
〈文化部〉 吹奏楽部・茶道部・プログラミング研究部
蒼阿祭 2023
支部だより
東京支部・徳島支部
総会のお知らせ



ご挨拶

名誉会長

箕島 弘二

穏やかな新年を迎えられたと思った矢先に令和6年能登半島地震が、続いて2日には日本航空のAirbus A350-900と海上保安庁のBombardier DHC-8が羽田空港の滑走路上で衝突するという大きな事故が起きました。悠久同窓会会員、関係の皆様におかれましては、お変わりございませんでしたでしょうか。地震、事故で亡くなられた方に哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。

徳島は、近い将来に南海トラフを震源とする巨大地震に襲われることが想定されています。このような緊急事態の場合、まず学生の皆様の命・安全を守り、併せて地域の拠点としての機能を果たすことが必要ですので、地震・津波に対する対策、その後の教育の継続を含めた事業継続計画や震災対策用品の備蓄等の確認を新年明け直ちに学内関係部署にお願いしました。また、羽田の事故では、日航機の乗員・乗客には一人の被害者も出さず、海外でも「奇跡の脱出」と報道され、乗務員の沉着冷静かつ適切な指示・誘導と乗客の方々の適切な行動が賞賛されています。全校一斉に年1回、寮生を対象としては年2回の地震・津波や火事に対する避難訓練を行っていますが、訓練をより実態に合わせる等の見直し等により、学生の皆様の緊急時の対処能力を上げて、安全・安心な学生生活を確保します。

さて、2020年初頭からのコロナ禍では、学生生活に制限をお願いしましたが、昨年5月の新型コロナウイルス感染症の2類から5類感染症への変更以降、春季体育大会をコロナ禍前と完全に同一の形式で実施、秋には高専祭を一般の方々に開放し、飲食も可（キッチンカーに来ていただきました。）にして、4年振りに「蒼阿祭」と名付けて実施、さらに4年振りに学生の海外派遣も再開しました（夏休みと春休みに計71名派遣）。この3月の卒業・修了式も、昨年と同様に阿南市文化会館夢ホールに卒業・修了生全員に加え保護者の方々も一堂に会して挙行後、4年ぶりにロイヤルガーデンホテルで祝賀会を行います。3年余りのコロナ禍の間は、学生の皆様に多くの制約をお願いしましたが、今ではコロナ禍前と同様に笑顔で勉学、課外活動、研究に励んでいます。

昨年の同窓会誌「悠久」でお知らせしたように、阿南高専は今年度、創立60周年を迎えました。これを記念して、高専便り60周年記念特別号（この同窓会誌と同時期に発行）や阿南高専の紹介動画の制作、3月20日（水）、春分の日には、阿南高専・創造テクノセンターを会場に、60周年記念式典、記念講演会を、引き続いて正門前で高専制度創設60周年記念植樹（高専の森プロジェクト）を行います。また、昨年より工事をしていた混住型学生寮が丁度この時期に竣工することから、その竣工式を行った後、会場をロイヤルガーデンホテルに移して記念祝賀会を催します。記念講演では、同窓会の皆様と相談のうえ、阿南高専16期生（機械工学科1983年卒業）の近清 武 様（(株)マイクロミュージアムラボラトリー代表取締役）に「科

学を映像メディアで伝える ～ 科学コミュニケーションを促進する意義～」という題でご講演いただきます。創立以来60年の間に本科卒業生8002名、専攻科修了生492名を送り出し、起業家を含め、産業界、地方公共団体、高等教育研究機関をはじめとする幅広い分野で活躍されていること、ご同慶の至りです。

皆様が受けられた5年あるいは7年一環の日本独自の早期工学教育は、世界からも注目されており、本校もタイに設立された2校の日本型高専（KOSEN）の連携協力校としてタイ高専向けのカリキュラム開発、タイ高専からの留学生受入れ、昨年10月からタイ高専へ2年間の予定で教員1名を派遣しています。また、昨年度に続いて今年度もタイのチュラポーン王女サイエンスハイスクールから2名の留学生を本科新入生として受け入れました。今年度の留学生は計13名で、日本人学生に対する割合はまだ小さいですが、本科1年と低学年から考え方の異なる学生と交流することにより、日本人学生も刺激を受けています。

教育に関しては、あらゆる工学分野で情報分野の知識・技術が不可欠であるため、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定される教育を、2022年入学の全学生から開始しました。さらに高度な内容を学生が履修できるように準備を進めていたところ、今年度初めに文部科学省の大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）の公募があり、申請書を提出していたところ、全国で5高専のうちの1校として、10年間の支援が決定しました。支援を受ける多くの大学・高専では、情報系の学科、コースの定員増を図る計画ですが、前述のように情報分野の知識・技術は全ての専門分野（機械・電気・建設・化学コース）の基盤の一つとの考えから、各専門コースに特化した情報系科目群を、2025年入学生全員に開講できるように準備を始めました。また、この支援により情報教育環境を拡充し（高度情報教育センター棟新築等）、在学生や今年入学する学生の皆様に対しても、入学時の教育課程表に載っていない新たな情報教育科目を受講可能にするとともに、新規導入の実習機器を前倒し活用し、情報教育の学習・実習効果が上がるように計画しています。

また、起業家育成を担う高等教育機関として高専の重要性が認識され、今年度の文部科学省予算にも「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」が挙げられています。本校も起業家工房を設置するなど、アントレプレナーシップ教育の強化を図っています。起業家となる卒業・修了生を増やすためには、一つには企業家マインドを醸成する教育や環境を整備する必要があり、同窓会会員の皆様のご支援、ご協力が欠かせません。

地域、日本そして世界で活躍する阿南高専卒業・修了生を輩出する使命を果たすべく、今後の社会変革や技術革新に対応できる学生を育成するために、教育課程の見直し等の改革を継続します。阿南の地に根ざした高専として、地域企業等との共同研究を始めとして、社会人のためのリカレント教育や小中学校の出席授業などの地域貢献を学生ともども深化させるべく、教職員一同努力しています。今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〈追記〉

阿南高専eスポーツ研究会の学生の活躍をモデルにした映画、「PLAY! ～勝つとか負けるとかは、どうでもよくて～」(昨年1月下旬、本校でロケ実施、在学生もエキストラ出演しました。)が去る3月8日に全国公開されました。



「昇龍」の 年を迎えて

同窓会会長

横手 久典

まずは、何千年に一度といわれる地殻変動（4mの隆起）に遭遇されお亡くなりなられた方々と今なお不自由な避難生活を余儀なくされている能登半島大地震の被災者の方々に哀悼とお見舞いを申し上げます。元旦早々に発生した自然の猛威に触れ、人命の尊さと来るべく東南海地震への備えの重要性を強くするものであります。神戸淡路大震災の発生から29年目、また新たな震災忌が1月に加わりました。我が国は、世界でも有数の地震国、先人たちはその災害のたびに悲しみと苦悩を背負いながらも被災者らが協力し合い逆境を乗り越えてきた民族であります。今回の災害も時間はかかるかもしれませんが、能登の復興を心から願い、我々も我々の出来ることで復興の支えになれることをしていきたいと決意新たにすところあります。

悠久同窓会の皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。コロナが第5類感染症となり、不自由な鎧から解放された昨年よりやっと、従来の同窓会活動ができるようになり安堵いたしております。10月28日には悠久同窓会関東支部の総会に出席させていただき、懇親を深めることができました。また、寺沢前校長も出席されておりマラソンの話を肴においしく酒を酌み交わしました。

11月25日には、5年ぶりの開催となる全国高専同窓会連合会の会合に参加、高専機構の谷口理事長や各高専の同窓会の現状をお聞きすることもできました。

翌26日には、両国国技館にて全国高専口ボコン2023全国大会に十数年ぶりに本校が出演し、その応援に参じました。関東支部の会員の皆様も、久しぶりの出演に横断幕を持参し応援に駆けつけていただき、それを掲げての熱い声援に高専愛、母校愛を感じました。本当にありがとうございました。また、めったに体験できない感動と興奮を味わわせていただいた後輩たちにもあらためて感謝申し上げます。

11月3日に関東支部高橋支部長、関西支部久米支部長、徳島支部日出支部長に阿南までお越しいただき、本部役員、また学校側より箕島校長にもご臨席いただき、「悠久同窓会支部長連絡会議」を開催、学校の現状の報告や悠久同窓会の運営についての意見交換、今後の課題についても貴重なご意見を賜ることが出来ました。各支部の支部長さんには、遠いところご足労いただきましたことに感謝申し上げます。また、翌日には母校での「蒼阿祭」が数年ぶりに一

般公開で催され大盛況の中、「悠久同窓会」ブースでは卒業アルバム及び同窓会誌「悠久」の展示、各支部長と現役学生との対話を設け多くの学生から進路先での不安や悩みの相談を聞き、コミュニケーションを図ることが出来ました。新しい我々の取り組みにご賛同いただいた各支部支部長そして、学生諸氏に御礼申し上げます。百名を超える学生が「悠久同窓会」ブースに来てくれました。うれしい限りであります。

本年3月20日には阿南高専創立60周年の式典が執り行われます。記念講演会では、日本科学未来館 近清 武（16M）氏にご講演いただくことになっております。きっと興味深いお話をいただけると楽しみにしております。

後援会、AST（旧ACTフェローシップ）、悠久同窓会の阿南高専外部三団体で構成された「縁の下の会」、目的は異としますが、それぞれの会の情報を共有し阿南高専の発展に共に寄与するために共同の活動として校内美化活動を昨年6月に初めて校内の清掃を行いました。連絡の不備もあり、悠久同窓会からの参加者は本部役員だけに止まりました。この活動は毎年実施していくことになっております。より多くの同窓会からの参加者を呼び掛けてまいりますのでご協力いただけますよう、切にお願い申し上げます。

このような活動が少子化のなか、阿南高専を目指してくれる小・中学生が一人でも多くなり、定員割れを阻止することにつながると信じております。昨年、我が高専は文科省より大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）に採択されました。10年という長期間にわたり、国が支援する高専としては全国で5校という狭き門から採択されております。創立60周年を機にわが母校も大きく変化していくことでしょう。我々同窓会も会員同士の親睦を図ることで固く結びつき、後輩たちの充実した学生生活を支える母校の発展に少しでも寄与できるよう頑張っ参りましょう。悠久同窓会の皆様方のご健勝ご多幸を心より祈念し、悠久同窓会をより一層ご愛顧いただけるようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



学 校 だ よ り

社会ニーズに沿った教育へ

教務主事

松本高志

悠久同窓会会員の皆さま、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。教務主事を務めております電気コースの松本高志です。

2022年11月にChatGPTが公開されると、革新的なサービスとして注目を集め、わずか2か月でユーザー数1億人を突破しました。その後も多種多様な音声・画像の生成AIがビジネスシーンやDX・日常生活で活用されています。これからの時代は、一部の情報技術者だけがデータサイエンス・AIを活用できるのではなく、かつての読み書き・そろばんのごとく多くの人がデータサイエンス・AI等の情報技術を利用できなければなりません。

2023年に総務省が発表した「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」におけるデジタル化の実施状況（各国比較）によると、企業の取組状況として中国約85%、ドイツ約65%、米国約60%に対して、日本の企業は約30%と大きく遅れています。このような状況の中、2023年4月に文部科学省が公募した大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2】へ応募し採択されました。高専の採択は全国で5校のみでした。製造業においては、デジタルトランスフォーメーションが進んでおり、IoTやAIなどのデジタル技術が活用されるようになってきましたが、ものづくり技術を持つ高度情報専門技術者が製造現場で不足しています。高度情報専門人材によって自動化・効率化により品質向上、生産性向上やコスト削減などが期待されています。本取組は、情報技術を駆使し、専門分野において課題解決できる人材を育成することを目的に、専門分野のカリキュラムに高度な情報分野の講義、実験・実習を追加する形でカリキュラム編成を行い、各コースに情報系プログラムを導入します。プログラム修了要件の単位を取得することにより、プログラム修了を認定します。2025年度入学生から適用となりますが、在校生に対する情報教育も可能な範囲で追加して提供します。また、2025年度末に全学の高度情報教育実施の中核機能を担う高度情報教育センター棟が竣工予定です。先進的かつ実践的な高度情報教育を推進するための教育環境を充実させるため、クラウドファンディングを実施します。阿南工業高等専門学校エンジニア育成基金と併せてご支援をよろしくお願いいたします。

優れた技術力と柔軟なアイデアを有する若い高専生にアントレプレナーシップ教育を追加することにより、スター

トアップ人材の育成が期待されています。昨年度末、高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業の採択を受け、起業家工房の整備とアントレプレナーシップ教育プログラムの整備が進行中です。起業家工房は基盤的のものづくり支援設備とコラボレーションワークエリア（サテライト工房）で構成されています。このうち基盤的のものづくり支援設備は次の3つのゾーンで構成されます。①クリエイティブワークゾーンは、AST 倶楽部、AST 起業塾、分析・測定機器、3D スキャナを設置したエビデンススペースでのクリエイティブな活動の場、②ラピッドプロトタイプングゾーンは、3D プリンタ、レーザー加工機、高速切断機、電子工作工具等を備え、全学生が気軽に利用できる試作工房、③先端技術トライアルゾーンは、最先端レーザー微細加工技術を活用できます。本校では先端技術であるレーザー微細加工技術をスタートアップにつなげようと、起業家工房を構築中です。後期には1年生全員が体験するものづくり工学においてレーザー微細加工技術を体験しました。また、外部講師招聘によるアントレプレナーシップ教育、阿南高専科学技術振興会によるOBOG 起業家講師を招聘するAST 起業塾も開催し、アントレプレナーシップ教育を推進しています。

早期に理工系に興味を持ってもらい、ひいては高専を志望してもらえるよう小中学生を対象としたSTEAM教育を学生が主体となって教えています。この体験により、学生はコミュニケーション力等のコンピテンシーを磨いています。また、STEAM教育を発展させるため、高専機構本部から「理工系人材の早期発掘とダイバーシティ型STEAM教育強化」に採択され、高専生対象のSTEAM教育の開発、イオンモールにおけるものづくり体験会開催やオンラインSTEAM教材の開発にも取り組んでいます。

今年度の留学生は13名です。国費留学の他、マレーシア政府派遣、タイ高専KMITLからの3年次編入、タイ王国のチュラポーン王女サイエンスハイスクールからの1年次入学の留学生たちです。コロナ禍で停滞した海外派遣を再開でき、8月中旬から約1カ月間、ベトナムのカオタン工業短期大学、シンガポールのリバプリックポリテクニクに合計13名の学生を海外短期留学生として派遣しました。春休みにも海外派遣を計画しております。次年度は、短期留学生の受入も再開し、さらに活発な国際交流が展開される見込みです。

本校が主催する企業研究セミナーは、2日間で約360



ベトナムカオタン工業短期大学への留学

社にご参加いただき、大規模なものとなっています。3年生は早期の企業研究やインターンシップ企業検討を目的に参加し、さらに2年生の希望者も50名以上が参加して活発に情報収集できていました。キッチンカーも出店し、にぎやかなセミナーとなりました。

学生が社会で活躍できる確かな学力を培うとともに、人間力も養える機会を提供できるよう、今後とも努めて参ります。

2024年が、皆さまと阿南高専にとってより良き一年になりますように。

学生の活躍 2023

学生主事
錦 織 浩 文

ここ3年間、コロナウイルス感染防止対策を講じながらクラブ活動を行っていましたが、今年度は通常の活動に戻り、各種大会に臨みました。四国地区高専体育大会において多くの競技で全国大会出場の権利を獲得し、本校は見事総合優勝を果たしました。今年度は全国高専弓道大会の主管担当でしたが、8月24日～25日、鳴門・大塚スポーツパーク弓道場、関係教職員・学生の協力により無事開催終了しました。

高専ロボコンは、四国地区大会（高知高専）において阿南高専Aチーム「果糖丸」が技術賞を受賞し、全国大会出場を果たしました。全国大会は11月26日、両国国技館で行われ、悠久同窓会の皆様にも多数の応援をいただきました。結果は初戦敗退でしたが、特別賞（東京エレクトロン株式会社）を受賞しました。

全国高専プロコン（サンドーム福井）は、課題部門で特別賞（3位相当）を受賞しました。全国高専テザコン（舞鶴市総合文化会館他）は、構造デザイン部門に学生4名が参加したほか、来年度開催の阿南大会（主管）に備え関係教職員が視察を行いました。



ロボコン全国大会
：競技会場



ロボコン全国大会
：応援席

愛好会では、eスポーツ研究会が全国高校eスポーツ選手権の予選を勝ち抜き、2月東京で開催される決勝大会の出場を決めました。

その他、各種大会における学生の活躍のうち主なものを挙げます（ここでは原稿締切の関係で12月末までの成績とします。より詳しくは本校ホームページをご覧ください）。

○徳島県高等学校総合体育大会（6月）

柔 道	男子団体	第3位	ほか
水 泳	男子200m平泳ぎ	第2位	ほか
テニス	男子団体	第3位	
	女子団体	第3位	

○徳島県高等学校選手権水泳競技大会（6月）

男子200m平泳ぎ	優 勝	ほか
-----------	-----	----

○四国地区高等専門学校体育大会（7月）

サッカー	団体	準優勝	
柔 道	男子団体	準優勝	
	男子81kg級	準優勝	
	男子無差別級	準優勝	
水 泳	男子200m平泳ぎ	第1位	ほか
ソフトテニス	男子ダブルス	準優勝	
	女子ダブルス	優 勝	
テニス	男子団体	優 勝	
	男子シングルス	第1位	
	男子ダブルス	第1位	
	女子シングルス	第1位	
	女子ダブルス	第1位	ほか
バドミントン	男子団体	優 勝	
	男子シングルス	第1位	
	男子ダブルス	第1位	ほか
バレーボール	男子	準優勝	
	女子	準優勝	
陸 上	男子400m	第1位	
	男子走高跳	第1位	
	男子三段跳	第1位	
	女子800m	第1位	ほか

○徳島県高等学校高校野球新人南部ブロック大会（8月）

第3位

○徳島県高等学校秋季テニス大会（8月）

男子シングルス 第3位

男子ダブルス 第3位

○全国高等専門学校体育大会（8月～9月）

水 泳 男子100mバタフライ 第2位 ほか

ソフトテニス 男子ダブルス 第3位



全国高専体育大会
▲バドミントン



陸上▶

テニス	男子ダブルス	第3位	ほか
バドミントン	男子シングルス	優勝	
	男子ダブルス	第3位	
陸上	女子800m	第1位	ほか

○全日本サーフィン選手権大会（9月）

男子ショートメン ベスト12

○徳島県高等学校新人陸上競技大会（9月）

男子400m 第2位 ほか

○ASJFF ASIAN OPEN JIU JITSU CHAMPIONSHIP 2023（柔術）（10月）

男子青ジュヴェナイルライト 第3位

男子青ジュヴェナイルオープン 第2位

○燃ゆるかごしま国体スポーツライミング競技（10月）

リード競技ペア戦 第13位

個人戦 第10位

ボルダー競技ペア戦 第12位

個人戦 第22位

○四国高等学校新人陸上競技選手権（10月）

男子400m 第6位 ほか

○徳島県高等学校新人柔道選手権大会（10月）

男子団体 第3位 ほか

○徳島県高等学校空手道新人大会（10月）

女子個人組手 第2位

形 第3位

○全国高等学校選抜卓球大会徳島県予選（11月）

男子シングルス 第3位

○全国高等学校柔道選手権大会徳島県予選（11月）

男子60kg級 準優勝

○四国地区高専総合文化祭（12月）

吹奏楽 優秀賞

写真 優秀賞 2名

書道 優秀賞 1名

英語スピーチコンテスト 第1位 ほか



最後に蒼阿祭について。今年度は悠久同窓会の後援を賜り、お笑い芸人（ジョイマン、シマッシュレコード）を招いてお笑いライブを開催することができました。会場の第一体育館には多数の方に会場いただきました。また、キッチンカー4台を招き、来場多数の蒼阿祭となりました。フェニックス広場では軽音野外ライブ、カラオケ大会、吹奏楽などの公演を行いました。室内では専門展示のほか、軽音ライブ、アニクラ、写真・書道・鉄道研究会展示、演劇動画公開、落語公演、茶道部お茶会、ピブリオバトル、ストリートダンスなど、多数の来場がありました。また、悠久同窓会もブースを構え、学生・保護者からの各種相談に応

じていただきました。

これからもいろいろな場面で学生が活躍できるよう支援していきます。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



キッチンカー



お笑いライブ会場

蒼阿祭の様子

学寮（明正寮）便り

寮務主事
田上 隆 徳

悠久同窓会の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年度より寮務主事を務めております一般教養数学の田上隆徳です。どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度、明正寮は新入寮生89名を迎え、総勢370名（内留学生13名）でスタートしました。寄宿舍2号館が改修され、寮生たちはより快適な環境で過ごしています。新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで寮でのイベントの多くが中止、縮小となっていました。今年度からは感染症防止対策を十分にとりながら、本来の活気あるイベントを復活させています。ここでは令和5年度の明正寮の主な活動等についてご報告いたします。

■ 寄宿舍2号館の改修

寄宿舍2号館が改修されました。2号館は主に1年生男子が生活する棟です。4人部屋を基本として、1年生男子はここで集団生活に必要な様々な事柄を学んでいきます。1階には風呂場とランドリールームがあり、寮生は快適に過ごしています。寮生からは「お風呂が広くて綺麗」等と好評です。



■ 教養講座（茶道・華道・英会話）

茶道は茶道室において、講師の先生や茶道部の部員の方々に茶道の作法や立ち振る舞いを教わり、実際にお茶を点て、一連の流れを練習しています。華道は寮集会室において、講師の先生から使う花や草木などの自然素材の説明を聞き、アドバイスを頂きながら、自分の好みに合わせて工夫して作品を完成させています。



■ 学寮防災訓練（津波避難・火災避難）

春季学寮防災訓練（津波避難）を5月17日に実施しました。阿南市の情報では阿南高専に津波の影響があるのは地震発生約20分後と想定されています。明正寮での避難完了までの目標時間は15分です（阿南高専外周約1.5kmを回る時間に相当）。スムーズに避難移動・整列・点呼確認ができたため、約8分で全寮生の避難を完了しました。

秋季学寮防災訓練（火災避難）を10月24日に実施しました。火災発生の放送を受け、全寮生は防災委員の指示に従いグラウンドへ避難しました。約10分で全寮生の避難を完了しました。その後、消防署職員の指導の下、訓練用消火器を使つての消火体験をしました。

■ 4年ぶりの寮祭を開催

寮最大のイベント「寮祭」を11月28日に4年ぶりに開催しました。寮生たちはイベント委員の企画した多数派当てゲーム、先生による手品パフォーマンス、役員格付けチェックなどを楽しみました。手品パフォーマンスでは、新任の数学の先生が見事なトランプさばきで寮生たちの歓声を浴びていました。また役員格付けチェックでは、「一番優しい役員は誰？」など普段では分からない寮生たちの本音を知ることができました。寮祭の最後を締めるビンゴ大会では、魅力的な景品に大いに盛り上がりました。



■ 特別講演会

寮生にとって有益な内容の特別講演会を定期的で開催しています。4年生寮生を対象とした講演では、トモニホールディングス株式会社代表取締役社長兼 CEO の中村武氏を講師にお招きし、消費者として必要となる金融リテラシーや様々な消費者トラブル、資産形成等についてご講演頂きました。また、女子寮生を対象とした講演では、阿南

警察署生活安全課の方を講師にお招きし、不審者対処・防犯講話についてご講演頂きました。

明正寮の最新の情報は、寮内の広報委員を通じて随時本校ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

今後も寮生とその保護者にとって満足してもらえる寮生活となるよう、寮務主事として誠心誠意職務にあたります。



一般教養便り

一般教養主任

藤居 岳人

悠久同窓会会員の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。今年度、一般教養主任を務める藤居でございます。よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス禍で異例の状況続きだった阿南高専も、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5類」へと変更になり、ようやく平常の状態に戻つつあります。確かに現在もコロナウイルスやインフルエンザに感染する学生や教職員も見受けられますが、校内でマスクをはずす学生も徐々に増加してきています。それとまどうのが、1年生はともかく2年生や3年生の顔を見ても、ちょっと誰がよくわからない場合が増えたことです。長い間、マスク姿の学生しか見ていなかったため、マスクで隠れた部分をこちらで想像して学生の顔を覚えていたのですが、実際は少し違っていることが多く、「あ、彼は（彼女は）こんな顔だったのか」とある意味で新鮮な驚きの連続でした。逆に、我々教職員はまだマスク姿の者も多く、学生もマスクをはずした我々の顔を知らないの、恐らく街中で会っても声をかけられる機会は少なくなるのではないかと考えています。

また、今年度も引き続きタイからの留学生2名が1年生として4月に阿南高専に入学しています。留学生たちは慣れない日本語や日本の文化にとまどっている側面もありますが、グローバル推進室をはじめとしたサポート体制を敷いており、できる限り早く阿南高専での学生生活にフィットしてもらえるように支援しております。

それでは一般教養教員の異動についてご報告いたします。まず、4月に数学の浮田卓也先生が助教から講師に昇任なさいました。先生は位相幾何学がご専門で、今後、より一層のご研究の進展を期待しております。次に同じく数学の西本康人先生は、サバティカル制度を利用して今年度1年間、主に大阪大学でご研究に専念されています。先生は確率論がご専門ですが、ぜひ研究成果を挙げられてお戻りになり、高専での教育に邁進していただきたいと思っています。最後に、令和5年3月をもってご定年を迎えられた勝藤和子先生と櫛田雅弘先生は、嘱託教授として今年度も引き続き阿南高専で教鞭を執られています。両先生の豊富なご経験をぜひ我々にいつそ伝えてもらいたいと考え

ています。

続いて今年度の一般教養の教員をご紹介します。

国語は、坪井泰士先生（国語教科主任）、錦織浩文先生です。主な校務は以下の通りです。（以下、各教科とも同じ）

坪井先生 2Z 担任

錦織先生 学生主事

社会は、今田浩之先生（社会教科主任）、藤居です。

今田先生 2C 担任（学年主任）

藤居 一般教養主任、1-3・1-4 副担任

数学は、田上隆徳先生（数学教科主任）、山田耕太郎先生、西森康人先生、浮田卓也先生、遠藤健太先生、櫛田雅弘先生です。

田上先生 寮務主事

山田(耕)先生 2E 担任、教務主事補

西森先生 サバティカル中

浮田先生 1-4 担任

遠藤先生 寮監、1-1 副担任

櫛田先生

英語は、藤井浩美先生（英語教科主任）、谷中俊裕先生、プロワント先生、福井龍太先生、勝藤和子先生です。

藤井先生 広報情報室長、1-2 副担任

谷中先生 1-3 担任

プロワント先生 寮務主事補、2C・2Z 副担任

福井先生 2I 担任

勝藤先生

理科は、松尾俊寛先生、山田洋平先生（理科教科主任）、園田昭彦先生です。

松尾先生 図書館長、1-1 担任

山田(洋)先生 学生相談室長、2I 副担任

園田先生 教務主事補、2M・2E 副担任

体育は新井修先生（体育教科主任）、中島 一先生です。

新井先生 副学生主事、2M 担任

中島先生 学生主事補、1-2 担任

今年度は以上のメンバーで学生の教育・指導に取り組んでいます。上述のように校務を複数兼務する教員も増えて、より忙しくなっております。悠久同窓会の皆さまにもさまざまな面でご支援いただければ幸いです。

最後になりましたが、悠久同窓会の皆さまのよりいっそうのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



機械コース便り

機械コース主任

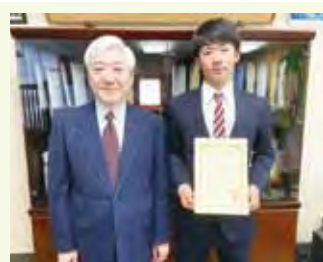
西本 浩 司

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。本年度も機械コース主任を務めさせていただいています西本です。どうぞよろしくお願いたします。

機械コースの近況についてご報告させていただきます。まず人事ですが、奥本良博先生が令和5年4月1日付で教授に昇任されました。また令和5年3月31日付で、西野精一先生がご退職されましたが、現在も嘱託教授として教育研究にご尽力いただいています。今年度の機械コースにおける主な担当ですが、原野智哉先生は寮務主事補、大北裕司先生は3年生担任、奥本良博先生は5年生担任と就職担当およびキャリア支援副室長、川畑成之先生は副教務主事と進学担当、松浦史法先生は総合情報処理室長と学生主事補、安田武司先生はグローバル推進室長と3年生副担任、伊丹伸先生は4年生担任を担当しております。

教職員の活動状況についてですが、安田武司先生が高志賞（研究部門）を受賞されました。安田先生は、非破壊検査法に活用されているアコースティック・エミッション（AE）現象に着目し、これまで、鋼材に対するレーザ焼入れの非破壊その場品質検査手法に関する研究を継続して推進しており、論文投稿や専攻科生の研究指導の成果および学協会での活躍が評価されました。次に学生の活動状況として、専攻科創造技術システム工学機械システムコース2年 山本武海君（西本研究室）が軽金属学会第144回春季大会において「レーザ加熱によるA2024アルミニウム合金の表面溶体化処理と表面時効硬化」の題目でポスター発表を行い、優秀ポスター発表賞を受賞しました。また、本科3年の水口 悠さんと大野望光さんが、技能検定・機械検査の実技試験において優秀な成績を収めたことから、「第48回 徳島県職業能力開発促進大会」にて優秀技能士知事表彰および優良技能士表彰を受賞しました。本資格取得に当たっては、技術部の立石学先生の熱心なご指導によるものであり、優秀技能士知事表彰、優良技能士表彰ともに3年連続で受賞しています。

さて今年度の卒業予定者は39名であり、25名が就職、14名が進学



ポスター発表賞受賞



令和5年度優秀・優良技能士知事表彰の受賞
(左:大野くん、右:水口くん)

予定です。具体的には、大塚製薬(株)、大鵬薬品工業(株)、日亜化学工業(株)、フジテック(株)、一般財団法人日本品質保証機構、サンスター(株)、四国電力(株)、(株)小松製作所、コマツカスタマーサポート(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、オークマ(株)、(株)リブドゥーコーポレーション、フードテクノエンジニアリング(株)、新明和工業(株)、極東開発工業(株)、(株)タダノ、(株)JERA、サンリツオートメーション(株)、ファナック(株)、公務員となっています。進学先は、本校専攻科、千葉大学、東京農工大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、三重大学、徳島大学となっています。

機械コースは、ものづくりを通して社会の発展に貢献できる技術者の育成に貢献すべく教職員一同力を尽くしていますので、今後ともご支援ご協力をお願い致しますとともに、悠久同窓会会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

電気コース便り

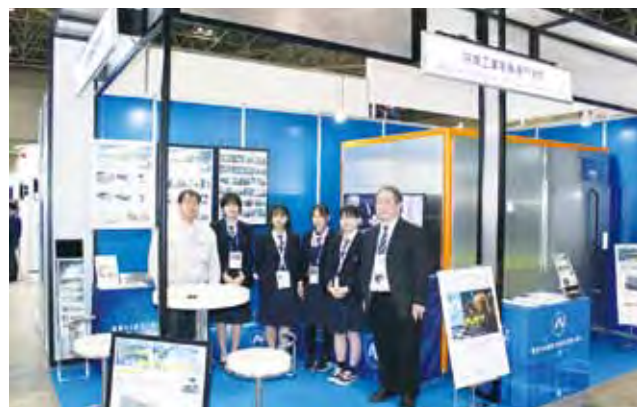
電気コース主任
小松 実

悠久同窓会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年度に引き続き電気コース主任を務めています小松です。よろしくお願いいたします。

まず今年度のスタッフの異動についてご報告します。松本高志先生は副校長(教務)・教務主事、中村雄一先生は自己点検・評価委員長と専攻科担任(就職担当)、長谷川竜生先生は地域連携・テクノセンター長と副教務主事、釜野勝先生は5E担任と寮務主事補、藤原健志先生は4E担任(インターンシップ担当)、香西貴典先生は副学生主事、朴英樹先生は3E担任(進学担当)となっています。高専機構本部の小林美緒先生は、昨年9月からタイ高専へ赴任されています。

電気コースの近況をご報告いたします。まず、平成30年から始まった電気コースの電気技術イノベーション実習(起業・就業体験)は、2年生から5年生まで続いており、今年で6年目を迎えました。電力、電子、ロボット、AI・IoT、eスポーツなどの模擬会社を設立し、学生たちは実践的なスキルを身につけています。地元企業との協力を強化し、実践力豊かなエンジニアの育成に力を入れています。その一環として、レーザー関連の企業が設立され、2年生から最先端のレーザー技術に触れる機会が提供されています。また、昨年に引き続き SEMICON JAPAN 2023 に出展し、2年生の学生4名がレーザーに興味を持ち参加しました。最新の半導体技術との交流を通じて学生たちは業界の動向を学び、将来のキャリア形成に繋がる重要な経験を積んでいます。

今年度から、光・半導体技術者向けの特別講義をスタートし、学生たちが最新の光技術や半導体の進展について専門知識を深めています。さらに、各模擬会社の学生主



SEMICON JAPAN2023 阿南高専ブース
(電気コース2年生4名、長谷川教員、尾崎技術職員)

導の体験入学や高専祭での専門展示は、地域社会との交流を重視し、重要なイベントとなっています。これらの活動を通じて、地元の中学生や



体験入学
(学生が製作したロボットカー体験)

一般の方々に電気技術の魅力を伝え、学生たちはリーダーシップやコミュニケーションスキルを向上させています。小学生や中学生の若い世代に対して理工系への興味を促し、電気技術への関心を高めることを目指しています。地域社会との連携を一層強化し、未来のエンジニアを育成する一環として、今後も力を入れていきます。

今年度最大のニュースとして、阿南高専が舞台となるeスポーツの映画「PLAY! ~勝つとか負けるとかどーでもよくて~」(主演:奥平大兼・鈴鹿央士)が2024年3月8日に全国公開されます。映画の撮影は電気コースの教室や実験室で行われ、電気コースの学生もエキストラとして参加しています。教室や実験室は卒業生の方にとって懐かしい思い出が蘇ることでしょう。

本年度、文部科学省「大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)」に採択されました。本事業では、「専門分野において情報技術を駆使し、課題解決ができる人材の育成」を目的とし、令和7年度から電気コースに新たに光情報プログラムを設置し、高度情報専門人材の育成に取り組みます。地元企業と連携して、専門分野で必要とされる先進的かつ実践的な高度情報教育を実施する予定です。

今年3月の卒業予定者の進路状況についてご報告いたします。卒業予定者のうち、約7割が就職、3割が進学となりました。就職先企業として、四国電力・四国電力送配電5名、日亜化学工業3名、大鵬薬品工業2名、三菱電機名古屋製作所、ダイキン工業、メタウォーター、東リ、パナソニック、Daigas ガスアンドパワーソリューション、DTS、タダノ、阿波スピンドル、大昭和精機、ソフトサービスとなっています。進学先として、阿南高専専攻科3名、

徳島大学1名、九州大学1名となっています。

電気コースでは、学生の専門技術の修得とともに社会人基礎力の育成にも努めています。今後ともご支援ご協力をお願いいたしますとともに、悠久同窓会の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、電気コースからの便りとさせていただきます。

情報コース便り

情報コース主任
福見 淳二

悠久同窓会会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度より情報コース主任を務めさせていただいています福見です。よろしくお願いたします。

各先生の校務についてご報告いたします。田中先生は、昨年度定年退職されましたが、現在嘱託教授として教育にご尽力いただいています。杉野先生は地域連携・テクノセンター副センター長とリサーチユニット長、吉田先生はキャリア支援室長と就職担当、福田先生は学生主事補と進学担当、岡本先生は専攻科長、福見はコース主任と5年担任、安野先生は学生相談室副室長と3年担任、平山先生は教務主事補と4年担任、太田先生は寮務主事補とリサーチユニット長補およびプロコン主担当となっています。

情報コースの近況についてご報告いたします。新型コロナの影響も少しずつ薄れ、学校生活も平常を取り戻しつつあります。情報コースでもコロナ禍で中止となっていた行事が再開し、3年生が関西への一泊二日研修旅行を実施しました。初日には、理化学研究所計算科学研究センターを訪問し、スーパーコンピュータ「富岳」の概要、開発の経緯、先代スーパーコンピュータ「京」との違いなどを学び、ガラス越しに「富岳」と対面しましたが、学生はその迫力に圧倒されていました。その後大阪まで移動し、なんば周辺を散策し各自夕食をとった後に訪れた夜の野外ミュージアム「チームラボボタニカルガーデン大阪」では、インタラクティブに変化するデジタルアートの世界を堪能しました。2日目は、最新の情報技術が盛りだくさんの「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」において、最新のVR・AR技術、プロジェクションマッピング、空間演出等を体験してきました。この研修旅行を通して、情報コース



3年研修旅行（スーパーコンピュータ「富岳」見学）

での今後の学習への動機付けを高めることができたと思います。令和6年度からは、2年生、4年生の研修旅行も再開していく予定です。

また、高専祭も1日限定ですが開催され、一般の方の参加もあり以前の賑わいを取り戻しつつあります。残念ながら模擬店は中止となりましたが、その代わりにキッチンカーやお笑い芸人を呼ぶなど、学生は様々な工夫をしながら新しい高専祭に取り組んでいました。恒例の専門展示も開催され、情報コースでは学生自身が企画・準備・運営を担当するのが特徴ですが、今回は4年生がVRゲーム体験やドローン操縦体験、AIによる画像生成体験など最新技術の体験型企画を全8テーマ実施しました。当日は、非常に多くの家族連れや小中学生が訪れ、教室が順番待ちの人で溢れかえるほど大盛況でした。また、数多くのOB、OGにも来訪していただき、久しぶりに卒業生の元気な姿を見ることができました。

学生の学会発表においても、計測自動制御学会四国支部学術講演会2023が高知工科大学にて約4年ぶりの完全対面で開催され、情報コースからは5年生21名が参加しました。情報コースでは本科5年生に本学会での発表を推奨しており、今年度は情報コース5年生の約6割の学生が参加しました。参加者の大半は大学院生でしたが、本校学生も卒業研究の成果をショートオーラルとポスターで発表し、当日参加した大学・高専教員と講演者の投票により、51美馬歩高君の「巢内部での蟻の行動記録システムの開発」が優秀講演賞を受賞しました。阿南高専からは昨年度に引き続き2年連続の受賞となります。情報コースでは、今後も本科学生の研究活動活性化に取り組んでいきます。



SICE 四国支部学術講演会 2023
での優秀講演賞受賞

令和5年度卒業予定者の進路状況についてご報告いたします。卒業予定者36名のうち、約6割が就職、約4割が進学となっています。就職先は、日亜化学工業(株)、大鵬薬品工業(株)、サイファーテック(株)、富士通(株)、(株)Spee、フラー(株)、(株)NTTデータフロンティア、(株)NSD、TDCソフト(株)、東芝ITサービス(株)、(株)ソフトサービス、(株)富士通エフサス、東京ガスネットワーク(株)、三菱電機名古屋製作所(株)、(株)デンソー、(株)デンソーテン、(株)ディスコ、(株)マイスターエンジニアリング、トーテックアメニティ(株)となっています。進学先は、豊橋技術科学大学、徳島大学、本校専攻科となっています。

本年度、阿南高専が文部科学省「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に採択され、今後10年間で高度情報専門人材の育成に取り組んでいきます。その中で、情報コースとしては、より高度な専門知識・技術を身に付けた情報系人材育

成のための新しいカリキュラム構築に向けて、情報コース教員一同取り組んでいきます。悠久同窓会会員の皆様におかれましては、今後ご支援ご協力をお願いいたしますとともに、さらなるご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

建設コース便り

建設コース主任

森山 卓郎

悠久同窓会の皆様、今年度、建設コース主任を仰せつかっています森山です。よろしくお願いいたします。

建設コースのご報告として、まず教員の近況についてご報告いたします。昨年3月には、嘱託教授として授業などを担当されておりました松保重之先生が退職されました。この3月には、同じく嘱託教授の堀井克章先生が退職されます。教員の世代交代が進んでいますが、若い先生方の知識や技術、アイデアなども活用しながら、次の時代の建設業界を担う人材育成のため、今後も学生教育などに尽力してまいります。

今年度の教員の校内役職としては、5Cの担任と就職担当を森山が兼務しています。創造技術工学長と5C進学担当を吉村 洋先生、4C担任とインターンシップ担当を角野拓真先生、3C担任を井上貴文先生、専攻科2年担任と寮務主事補を加藤研二先生、副教務主事と3C副担任を長田健吾先生、学生主事補を多田 豊先生が担当されています。景政柊蘭先生は着任したばかりのため、主要な校内役職はありませんが、今年度から環境工学や環境実験などの授業の主担当や卒業研究の指導などをされています。

今年度の学生の進路状況としては、就職が16名、進学が9名で、全員の進路が決まっています。就職先としては、国土交通省（2名）、竹中土木、IHI インフラ建設、大和リース（2名）、西日本高速道路ファシリティーズ、日本下水道事業団、NTT インフラネット、徳島県、姫野組、西野建設、アズマ建設、環境防災、フジタ建設コンサルタント、海部消防組合です。進学先としては、阿南高専専攻科（2名）、九州大学、徳島大学、長岡技術科大学、豊橋技術科学大学（2名）、千葉大学、名城大学です。

コース内の行事としては、コロナで中断していた行事を少しずつ再開させています。毎年恒例に行っている徳島県技術士会出前講座は、6月に4C学生に、7月に3C学生に実施しました。来訪した約20名の技術士の方々から進路決定に向けて、学生1人1人に有益なアドバイスなどをさせていただきました。6月には、2C学生の建設コース配属の歓迎会を行いました。教室でドリンクやお菓子を用意し、建設コースの教職員の紹介やビンゴ大会などを行いました。出席した建設コースの先輩の学生から、2C学生に向けての激励のメッセージもありました。8月下旬には、伊方発電所などの四国電力の施設の見学を1泊2日で実施しました。今回は建設コースの2Cから5Cまでの希望者



四国電力発電所見学



瀬戸大橋見学

20名が参加しました。9月には3C学生の関西方面への研修旅行を行い、明石海峡大橋や平等院、梅田スカイビルなどを見学してきました。2C学生の日帰りでの瀬戸大橋見学も9月に実施しました。

5月と7月と10月にイオンモール徳島で開催された本校のものづくり体験イベントに建設コースも参加し、「ブリッジコンテスト」や「ペーパーブリッジをつくろう」などのテーマを実施しました。当日は、スタッフとして参加した建設コースの学生らが、来場した小中学生らのサポートなどをしました。

また、10月に四国大学交流プラザで開催された2023年度建築甲子園徳島大会には建設コース学生も出場し、多田先生指導の3C学生チームの作品が最優秀賞を受賞しました。建築甲子園は、日本建築士会連合会主催の建築を学ぶ高校生・高専生（3年生まで）が参加できる最も栄誉ある大会です。今年の課題は、「地域のくらしーまちに住む・地域に開く住まい」であり、職住一体の家を成立させるまちづくりの条件を考えるものでした。

11月に京都府舞鶴市で開催された第20回全国高等専門学校デザインコンペティション（高専デザコン）には、角野先生指導のもと、構造デザイン部門に4Cの6名の学生で構成された1チーム（作品名 徳島ラーメン橋）が参加しました。紙で作成した橋梁模型の強度や軽量性、デザイン性で他の高専のチームと競いました。残念ながら入賞は叶いませんでしたが、学生は作品製作の段階から一生懸命取り組んでいました。高専デザコンは、今年11月には初めて阿南高専主管で開催されます。学校の校舎や体育館を会場とする予定です。日本全国の高専の学生や教職員、

審査員や来賓だけでなく、モンゴルの高専の参加者も受け入れて各部門で競技を行うため、現在学校全体で準備を進めています。

他にも各種イベント参加や学会での研究発表など、学生の学外での活動も積極的に行っています。今後も建設コースにご支援のほど、よろしくお願いいたします。



高専デザコン参加



▲ 新2年生白衣着用式 (2023)

2年生は、4月の白衣着用式で化学コースの仲間入り、4年生主催の「ようこそ、化学コースへ!」の会で歓迎されました。3年生は、専門科目の割合が増え、実験スキルも上達しました。3月には(株)カネカ、USJ、森永乳業(株)神戸工場への研修旅行も予定しています。4年生は夏にインターンシップを実施しました。また、イオンモール徳島で開催された高専説明会ものづくり体験イベントや蒼阿祭の専門展示で、様々な化学実験の実演を精力的に行ってくれました。5年生は28名全員の進路が確定しました。就職者21名で、日東電工(株)2名、大塚化学(株)、太陽ファルマテック(株)2名、大塚製薬(株)3名、(株)カネカ2名、三菱ガス化学(株)2名、(株)大塚製薬工場2名、大鵬薬品工業(株)、東邦化工建設(株)、サントリーホールディングス(株)、DIC(株)、東亜合成(株)、三洋化成工業(株)、(株)リブドゥコーポレーションより内定をいただきました。また進学者は7名(合格のべ12名)で、阿南高専 専攻科 応用化学コース、長岡技術科学大学 工学部 物質材料工学課程 (VOS 特待生)、香川大学 創造工学部 創造工学科 先端マテリアル科学コース、徳島大学 理工学部 自然科学コース2名、豊橋技術科学大学 応用化学・生命工学課程3名、岡山大学 理学部 化学科、岡山大学 工学部 化学・生命系、神戸大学 理学部 化学科、大阪大学 工学部 応用自然科学科に合格しました。従来同様の進路確保ができたことは、化学コース卒業生、さらには悠久同窓会会員の皆様の多大なご支援・ご協力の賜物です。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

化学コースは、本校60周年の節目に第10期生を迎えます。未来の学生に向けてコースの魅力を存分に発信すべく、本格的なPR動画も作製し、YouTubeに公開しま



▲ イオンモール徳島ものづくり体験イベント

化学コース便り

化学コース主任

小西 智也

悠久同窓会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。今年度も化学コース主任を拝命しております小西と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

化学コースでは「自然を知る(物理化学・分析化学)」「環境を学ぶ(生物学・環境工学)」「物質を創る(有機化学・無機化学・化学工学)」の3つの学びを通して、化学薬品製造技術者、化学プラントエンジニア、品質管理技術者、化学研究者に必要とされる知識と技術を修得します。実践を重視した教育方針に特色があり、4年までに上記6分野にわたって実験科目を設置しています。4年前期には全研究室のテーマを含む「物質化学実験」があり、より実践に即した実験技術を修得します。4年後期からは各研究室に配属され、5年の卒業研究に備えます。令和5年度に新設した「創造ゼミナール」では、大学研究者、企業技術者等を招聘して最先端の科学技術や工学問題について学びました。「環境工学」等、資格取得を見据えた科目も設置されており、多くの学生がeco検定、QC検定、甲種危険物取扱者等の資格を取得しました。

学年ごとの構成は2年生30名(内、留学生1名)(担任:坪井泰士先生)、3年生28名(内、留学生1名)(担任:大谷卓先生)、4年生26名(担任:大田直友先生)、5年生28名(内、留学生1名)(担任:鄭 涛先生)となっております。また、令和5年4月より江連涼友先生(化学工学)が助教として着任されました。なお、吉田岳人先生は令和年3月末でご定年を迎えられました。



▲ 阿南高専・化学コース公式 PR 動画

した。近年では女子学生の割合も増え、クラスの半数を占めるようになりました。留学生もこれまでに4名受け入れました。時代の変化に合わせ、今後数十年先にも活躍できる化学系技術者・研究者の養成を目指して、数理・AI・データサイエンスも取り入れた先進的な化学教育も展開していく予定です。引き続き、未来のエンジニアや研究者を目指す学生の学習・研究を全面的にサポートしてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。最後になりますが、悠久同窓会会員の皆様のみますみのご健勝とご活躍を祈念いたします。

広報情報室より

広報情報室長
藤井 浩美

本年度の広報活動は、5月27日(土)28日(日)徳島会場(イオンモール徳島)、6月4日(日)淡路会場(サンライズ淡路)での高専説明会を皮切りに本格的にスタートしました。本説明会には3日間で、95組179名の中学生および保護者の参加がありました。徳島会場では4・5年生の有志数名も運営補助にあたりました。特に、質疑応答では「学校(寮)は楽しいですか?」「勉強は難しいですか?」など、次々と寄せられる学校生活・寮生活に関する参加者からの素朴な質問に丁寧に答えました。本校現役学生の生の声・本音を聞ける貴重な機会となり、参加した中学生・保護者に大変好評でした。

6月18日(日)および7月18日(日)には、東京と大阪でそれぞれ開催された「国公立私立高専合同説明会(KOSEN FES)」に昨年度に引き続き参加しました。当日会場には、本校のOB・OGが駆けつけてくれ、阿南高専ブースに個別相談に訪れた参加者に本校の魅力を卒業生の立場から語ってくれました。その成果もあり、この説明会がきっかけで本校に興味を持ったという県外在住の中学生・保護者からの「中学生一日体験入学」「校内見学」の申し込みが数件寄せられるなどの成果がありました。近年では、徳島県・淡路島に限らず、全国からより広く志願者を集めようと県外での広報活動にも尽力しています。現



国公立私立高専合同説明会
(7月・大阪会場)



入試説明会(10月・徳島会場)

在、愛媛・大阪・京都・奈良・千葉・山形・長崎など全国から34名の県外出身の学生が在籍しています。

9月～11月には入試説明会(徳島会場、西部会場、淡路会場、阿南会場)を実施しました。今年度からは、塾関係者の方々の参加も募り、入試説明会全体ではのべ236名の参加がありました。

その他の広報活動としましては、「阿南高専ものづくり体験イベント」を年3回(5月、8月、10月)、イオンモール徳島にて開催しました。ロボット操縦体験、VR体験、eスポーツ体験など様々なブースに多くの方が立ち寄りくださり大盛況でした。また、「放課後オープンキャンパス」を9月下旬から計5回実施しました。これは本校学生が案内役を務め、校内施設やクラブ活動を見学するイベントです。今年で3年目を迎えますが、大変好評な企画となっており、昨年度は受け入れ人数いっぱいの参加申し込みがあったため、今年は枠を増やして対応しました。5日間で昨年を上回る43組80名(昨年度:24組53名)の中学生・保護者に参加いただきました。最後に、11月の下旬には本校のホームページを一新し、情報発信の効率性・効果を向上させました。

今後も阿南高専の魅力を広く知っていただくためのイベントを積極的に企画し、実施していきます。どうぞよろしくお願ひします。



放課後オープンキャンパス(10月・阿南高専)

専攻科より

専攻科長

岡本浩行

悠久同窓会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。令和5年から専攻科長を拝命しております岡本と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

専攻科では、学科における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的としています。「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践論を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者」の育成を図っています。創造技術システム工学専攻は、機械システムコース（AM）、電気電子情報コース（AE）、建設システムコース（AC）、応用化学コース（AZ）の4コースから構成されています。令和5年度は、1年生はAMが7名、AEが9名、ACが3名、AZが1名の20名が在籍し、1AM・1AC・1AZの担任は杉山雄樹先生、1AEの担任は杉野隆三郎先生が担当しております。また、2年生はAMが4名、AEが10名、ACが2名、AZが2名の18名が在籍し、2AM・2AC・2AZの担任は加藤研二先生、2AEの担任は中村雄一先生が担当しております。また、原野智哉先生は総まとめ科目、複合領域ゼミナールなど専攻科科目を担当しております。

1年生は、今年度から前期・後期のセメスター制（昨年度まではクォーター制）となり、夏季のインターンシップ期間は短くなりましたが、ベトナム社会主義共和国、タイ王国、シンガポール共和国など国内だけでなく海外の企業や大学において実践的な活動に取り組みました。学生達はインターンシップで得られた貴重な経験について令和5年11月6日に実施されたインターンシップ報告会で報告しました。ご多用のところAST企業をはじめ多くの企業や大学において専攻科学生を受け入れていただき、また懇切丁寧なご指導をいただき誠にありがとうございます。

2年生は、これまで高専で学んできたことを総まとめ科目で1年間かけて省察するとともに、その集大成である特別研究論文を完成させました。令和6年1月26日に実施された特別研究発表会では、2年生18名が、これまで取り組んできた特別研究の成果について発表しました。2年生の進路について、進学は豊橋技術科学大学大学院、就職は日亜化学工業株式会社、東亜合成株式会社、東明エンジニアリング株式会社、東京電力パワーグリッド株式会社、大鵬薬品工業株式会社、大塚製薬株式会社、株式会社四電工、株式会社阿波銀行、株式会社IHIインフラ建設、株式会社日立ハイテクソリューションズ、株式会社四電技術コンサルタント、横河ソリューションサービス株式会社、メタウォーター株式会社、パナソニック株式会社となっております。これから始まる新しい環境において、専攻科で学んだことを活用して更なる飛躍を期待しています。

また専攻科棟の講義室を合併し、収容人数を増やした講義室を整備しました。令和5度からは整備された講義室で専攻科生全員が出席する総まとめ科目などの授業、入学式後の新生と2年生との対面式やインターンシップ報告会などを実施しました。

引き続き、専攻科での教育・研究環境を整えて、未来のエンジニアや研究者を目指す学生の学習・研究を全面的にサポートしてまいりますので、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、悠久同窓会の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。



▲ 専攻科1年 インターンシップ報告会



▲ 専攻科2年 特別研究発表会を終えて



▲ 1年生と2年生の対面式

会 員 だ よ り



近 況 短 信

昭和43年度機械 森 岡 和 美

悠久同窓会会員の皆さまお元気ですか。

阿南工業高等専門学校は、昭和38年4月1日機械工学科2学級、電気工学科1学級で発足し、令和5年度は、創立60周年になります。卒業生も9,000人を数えます。

60歳と言えば、人生では「還暦」です。干支が一巡して元に還ります。人生の節目です。過去を振り返り未来を見つめ直す機会でもあります。そして新たな始まりの時でもあります。夢を追いかけて幸せを掴む学び舎であり続けて欲しいものです。1、2期生は後期高齢者となりましたが、心機一転、新しい気持ちで今後の人生を実りあるものにしましょう。

さて、この3年間猛威をふるった新型コロナウイルス感染症の位置付けが、令和5年5月8日からインフルエンザ並みの5類感染症扱いになり、半年が経過し、少しは平穏な社会がもどってきた感があります。

しかし世界に目を向けると、令和4年2月24日に始まったロシアのウクライナ軍事侵攻は、現在も続いており、一向に終息する気配はありません。また、10月7日には、イスラエル・ガザ戦争も勃発し、今年の年末も、また来年も穏やかな世界からは程遠いようです。早く争いが終息し、平和な日常が戻ることを期待したいと思います。

今年も、例年同様、最近の新聞投稿作品から抜粋し、近況報告とします。

会員皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、悠久同窓会の益々のご発展をお祈りします。

(令和5年11月12日記)

【通信Ⅰ】令和5年1月14日記

主体的に判断し知事を選ぶ

任期満了に伴う徳島県知事選挙は、令和5年3月23日公示、4月9日投票の日程で行われる予定である。既に、自民党の三木 亨参議院議員が出馬表明しており、同じく自民党の後藤田正純衆議院議員も出馬の意向を表明し、議員辞職をした。更に元徳島県議会議員の岸本泰治氏も出馬表明をした。注目される現職の飯泉嘉門氏は、1月6日現在でも、態度を明確にしていない。6期目を目指し立候補

するとなると、保守関係で乱立の様相を呈し、自民党県連も対応に苦慮している。

主権者（県民）にとっては選択肢が増えることで、好ましいことと言えるだろう。3者3様の事情も抱えているようだが、3氏はこれまでの実績もあり、その政治姿勢、政治手腕、行政手腕も明らかであるから立候補者の構図がどうなるうとも県民は、沈着冷静に見比べ、主体性を持って判断すれば良いことだ。じっくり見極めて今後4年間の県政を委ねるのに相応しいと思う人に投票すれば良い。

政治家の出处進退は、政治家自らが判断すべきことではあるが、これまでの選挙で選ばれたときに、負託された任務や責任を十分に全うしたかどうかを胸に手を置いて考えるべきだろう。それがきちんとできている政治家でなければ、県民の期待に応えることはできないし、県民から選ばれることも無いだろう。

自分なりに立候補者の想定をして、選挙戦の構図を描き、主権者として主体的に県政を委ねる人を判断すれば良い。

【通信Ⅱ】令和5年2月3日記

節分に招きたい福と良い鬼

2月3日は節分の日、太陽暦では、一般的に立春に節分が行われる。うるう年の関係で、2日や4日のこともあり、固定ではない。あちこちの家庭から、「鬼は外、福は内」と豆まきの声が聞こえてくる。

節分は邪気を払い、無病息災を願う行事と言われている。節分の鬼は諸悪の根源のようだ。鬼とは元々冬の寒気・疫病を指すものであった。人に災いをもたらす目に見えないものが鬼と呼ばれていた。鬼は牛のような角、虎の皮の「ふんどし」を着けた姿で描かれ、怖いものの代名詞のように使われることが多い。

外部からの邪気や疫病を払うという意味もあるだろうが、自分自身の心に邪心があれば、鬼はどこからともなく忍び込んでくるから、自分の心から邪気を追い払い、清らかな心を持つという先人の教えの意味もあるのだろう。

「鬼」という言葉もいろんな意味で広く使われる。他人から、「あなたは鬼だ」と言われるとショックを受けるだろう。しかし、「仕事の鬼ですね」「勉強の鬼ですね」と言われたら嬉しいだろう。他人に喜ばれる鬼を目指し、豆まきでは、心の中の悪い鬼を追い出し、良い鬼と福を招き入りたいものだ。

掛け声は、「鬼は外、福は内、良い鬼も内」で行きたいものだ。

【通信Ⅲ】令和5年3月9日 記

政治に求められる諫言の士

徳島県知事選挙を巡り、現職が6選を目指し立候補を表明している。元国会議員2名も既に立候補表明しており、保守系3名が立候補することになった。現職の多選の是非が一つの争点になっているが、多選批判云々よりもリーダーとしてどうあるべきか、どうであったかが問題なのではなかろうか。

名君と言われた唐の第二代皇帝太宗は、諫議大夫（かんぎたいふ）という役職を置きました。皇帝ゆえに周りの状況が見えなくなり、民衆の意に沿わない誤った政治をしないように、自身を諫めて政治の得失を論じる役目の人です。

日本でも僧・天海は、徳川家康から三代の将軍に仕え、意見具申をし、江戸幕府が270年もの長い間存続できた礎を築いたとも言われています。

戦前の岡田啓介首相は、総理大臣になると見えなくなるものが三つある。それは、「金、人、国民の顔」だと自戒を込めて常々そう言っていたそうです。

リーダーたるもの、公私の金の区別をキチンとしているか、自分に都合の良いイエスマンばかり重用して、耳の痛いことを言う人を遠ざけていないか、人民の顔は今どちらを向いているか、を常に意識して政務を行うべきです。

政治に必要なのはリーダーの決意と政治の正義を諫言し、人民が納得する政局運営が行えるように意見具申する「諫言の士」の出現です。「うそをつかない、そして倫理観のある政治」を人民は求めています。

【通信Ⅳ】令和5年5月19日 記

G7 広島 日本の責務重要に

G7 広島サミットが5月19日から21日まで広島で開催される。広島は世界で初めて原爆投下により、壊滅的な被害を受けながらも、平和と復興の象徴として、特に核廃絶にむけてのメッセージを世界に発信し続けている都市である。このような歴史と背景を有する広島で、核軍縮や非核化、世界平和の構築といった課題について議論されることは非常に意義深いものがある。

このサミットで、日本は世界で唯一の核被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けて各軍縮・不拡散に関する強いメッセージを打ち出すことが重要です。また、被爆者の苦しみや願いを世界に伝える責任があります。広島という被爆地での開催で、被爆者の証言や平和記念公園の見学などを通じて、参加国首脳に核兵器の非人道性や惨禍を実感してもらうことが肝要です。そして是非、議論や成果文書にそのことを反映させて欲しいと思います。

日本は、来年4月に国連安全保障理事会で議長国になります。この機会に広島サミットで得られた成果や提言を国連の場に持ち込み、核軍縮・不拡散に関する議論を促進し、核兵器国や非核兵器国の対話や協力の橋渡し国として責務を果たす必要があります。G7 広島サミットに大いに期待してやみません。

【通信Ⅴ】令和5年6月9日 記

人生で大切な自ら学ぶこと

水は地球上のすべての生物の命の根源であり、我々も多くの恩恵を水から貰っている。時には洪水などで被害を受けることもあるが、水に恵まれた日本には、水にまつわる諺や格言が多く、それゆえに水から学ぶことも多い。

戦国時代、豊臣秀吉の知恵袋と言われた黒田官兵衛（如水）の「水五訓」は実に人生の教えとして味わい深いものだ。彼は、水について

- (1) 自ら活動して他を動かす（率先垂範せよ）。
- (2) 常に己の進路を求めて止まらない（自ら考えて道を拓くことを心掛けよ）。
- (3) 障害に遭っても屈せず激しくその勢力を百倍にする（何事もあきらめることなく、障害には全力で立ち向かう）。
- (4) 自らは潔く他の汚れを洗いしかも清濁併せもつ（自身は清く、人を追いやることなく共にがんばる）。
- (5) 洋々として大洋を満たし、発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ霰（あられ）と化し、凝（ぎょう）しては玲瓏（れいろう）たる鏡となる（常に自然の理に沿って物事を考える）、と水を讃えている。

我々も人生において、色んな困難にぶつかり、迷うことや立ち止まることが多々ある。そんなときには、この「水五訓」を思い出してみよう。水から多くのことを学び、そして大切なことは「自ら学ぶ」ことのようなのである。

【通信Ⅵ】令和5年7月16日 記

「昇天ポーズ」球宴でも期待

7月19日、20日に開催されるプロ野球のオールスターゲームのファン投票で、オリックスの杉本裕太郎選手（阿南市出身）が外野手で3位の46万5441票を獲得し、出場を決めた。2021年にも監督推薦で出場、第2戦でホームランを打ち、敢闘選手賞を獲得、このシーズンは最終的には、32本塁打でパ・リーグの本塁打王を獲得した。

2022年は、シーズンは打撃不調で、規定打席にも達することができなかったが、交流戦では、首位打者を獲得し優秀選手賞（日本生命賞）を受賞、ソフトバンクとのクライマックスシリーズでも打率.385、1本塁打5打点の活躍で、日本シリーズ進出に貢献した。ヤクルトとの日本シリーズでは、3度の決勝打を評価され、MVPを獲得した。短期決戦に強いスター性はさすがである。

ファン投票出場が決まった6月28日も、対ロッテ戦、第3打席、7回無死1、2塁でレフトフェンス直撃の大飛球を打ち、外野手が処理にもたつくのを見逃さず、190cm、104kgの巨体を揺らして激走、少年野球以来というランニング本塁打を記録しファン投票選出に応えた。また2、4打席でも2塁打を放つなど、健脚ぶりも披露した。体格に似合わず、50メートル走では、最速6秒0の俊足とのことで、遠投115メートルの強肩の持ち主だ。

短期決戦男ぶりを発揮し、オールスターゲームでもラオウの「昇天ポーズ」が何度も見られることを期待している。頑張れ！杉本選手。阿南からみんなで応援している。

【通信Ⅶ】令和5年7月26日 記

倍速視聴 本質見逃す危険も

映画やドラマなどを早送りしながら見る「倍速視聴」が若い世代を中心に広がっている。通常より短い時間で多くの映像を見られる反面、ジャンルによっては作品の醍醐味が薄れるなど一長一短あるようだ。市場調査会社「クロスマーケティング」が昨年3月、全国の男女計1100人に行った調査では、動画を倍速視聴して経験がある人は20代で約半数に上り、60代でも20%台に達したとのこと。一般化傾向は顕著である。

ただ心配な点は、倍速視聴によってコミュニケーション能力の低下を招きはしないかという点である。ここ3年余り新型コロナウイルスの感染拡大で対面でのコミュニケーション機会が少なくなり、その能力不足が懸念されることである。日本の話芸の真骨頂である落語にしても、噺家のあの間合いと表情、仕草が話に深みと味わいをもたらしている。言葉だけでなく、応答の間や目線の動き、表情など様々な情報からストーリーは成り立っている。

倍速視聴だと細かい情報を見落としてしまい、推察力などを習得する機会の喪失に繋がるのではないかと懸念される。倍速視聴は効率的だが、得られる情報量は減り、作品の本質を見逃してしまう危険性ははらんでいることも理解しておくべきだ。

【通信Ⅷ】令和5年8月23日 記

新ホールアンケート 違和感

徳島県が県立新ホールの整備計画見直しについて、規模を縮小した場合の3パターンと現計画を示し、県民から意見を募るアンケートを始めた。提案は、4案の施設構成、設計費、工事費、開館時期を表に纏め一覧にしたものだけだ。どの物件がお好みですか？といったたぐあいの調査表にすぎないと感じられるものだ。

住宅物件紹介でも、間取り、価格、完成時期に加え、最寄り駅までの距離、時間、生活環境、医療・教育環境などの条件を提示して、購入者の判断材料にしている。

ましてや高額でしかも音楽ホールともなれば、それぞれの案について見直しの根拠、すなわちコンセプトの提示が必要なのではないか？間取り、費用、開館時期の比較だけで、「さあ、どれが良いですか？」ではあまりにも寂しい限りだ。そもそも新ホール整備計画は、どういった機能で、どういった目的で、何のために行うのかというコンセプト（全体にブレが無いよう、終始一貫した考え方・構想）が曖昧なまま進んできているからにはほかなりません。オーソライズされたコンセプトにしたがって判断すれば、自ずとどの案が良いかは決まってくる。せめて比較表には、なぜその案にするのかという見直し根拠の併記ぐらいは欲しいものです。

「意図ある制作物」を創る際には、「ベースとなる考え方（コンセプト）」の提示が必要不可欠です。

【通信Ⅸ】令和5年10月13日 記

新ホール 不協和音似合わず

徳島県が計画している新ホールの整備計画見直しについて、不協和音がまた一段と大きくなってきている。音楽ホールは心地良い協和音が響いてこそゆったりと寛げて、明日の活力を養う場所であるはずなのに、耳障りな不協和音ばかりだと行く気にもならない。それも音楽ホールの本質的なコンセプトに関わることというよりは、規模を縮小した場合の大ホールの席数だとか、小ホールの設置有無、はたまた設置場所にまで不協和音が鳴り始めた。

この原因は、当初の計画段階で、どういった新ホールにするのか、すなわちどこに、どのようなレベルで、どのような目的をもって、どのような演奏で、どのような人を対象にした音楽ホールにするかというようなことについて、基本コンセプトが曖昧なままに進んできたからに他ならない。

1900席だ、いや1500席だ、と口角泡を飛ばして自分の主張をしても、何ら本質的な解決には至らない。ここ

よるず
伝言板

「同窓生の声」募集

本校も独立行政法人となり、現在、様々な対策を取って教職員一丸となっております。しかし、教職員の知恵だけでは不十分な点もあるかと存じます。本校発展のために同窓生の皆様のお知恵も拝借することができましたらこれほどありがたいことはありません。『悠久』や本校のホームページ等をご覧になってお気づきの点がありましたら何なりと左記連絡先までご連絡い

ただけましたら幸いです。高い見地からの皆様のご意見をぜひお寄せください。同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】 阿南高専学生課

阿南市見能林町青木265

T E L 0884-23-7132

F A X 0884-22-4232

MAIL dosokai@anan-nct.ac.jp

は原点に立ち戻って「こういった音楽ホールにする」という基本コンセプトを双方で詰めれば、自ずと席数、小ホールの必要性の有無、設置場所の選定も落としどころは見つかるはずだ。県も議会も徳島市もそれぞれ名演奏家が揃っているはずだ。ここは見事なハーモニーで、「さすがだ」と聴衆が思わず拍手するような解決策を示して欲しいものだ。「意図ある制作物」を創る際には、「ベースとなる考え方（コンセプト）」の提示が必要不可欠である。

【通信X】令和5年10月31日 記

山あい農業体験学生の声

令和5年9月1日から9月19日にかけて、東京の武蔵野大学から2班に分かれて14名の学生が、農業体験ボランティアとして加茂谷地区にやってきた。平成26年、当時の阿南市の東京事務所長経験者からの要請で始まった事業で、今年で10年目の節目の年である。途中、新型コロナ

ウイルスの感染禍もあり、令和2、3、4年は現地受入中止を余儀なくされ、オンライン形式での受入であったので、4年ぶりの現地受入だ。

例年になく、厳しい残暑の中でも学生たちは、すだち収穫、葉物野菜の種蒔き・定植・収穫、肉牛の世話、農業用ハウスの整備などを若さとパワーでこなしてくれた。久しぶりに若者の声に加茂谷の山あいこだまし、元気と活力をもらった。

4年前は約80人の学生を25戸の農家で受け入れてもらったが、今年は15戸の受入農家を確保するのが精いっぱいであった。高齢化で農業を断念したり、高齢のご夫婦で片方が亡くなって農業をやめたりして、受入農家が減少してきている現実は厳しいものがある。ただその一方で若手の新規就農者2戸が新しく受入農家に加わり、移住就農者も育ててきており、一筋の光明もある。若者のパワーを地域の活性化に活かすべく地道な活動を続けたい。



勝手に書きます！
言いたい放題名作映画紹介

昭和43年度機械

乾 寛



映画に対する世の中の評価基準が変わってしまったのだろうか。あるいは、ついにもうろくしてしまい、変化について行けなくなってしまったのだろうか。2023年発表のアカデミー賞最優秀作品賞は「Everything Everywhere All at Once（通称「エブエブ」、何でもどこでも突然に、とでも訳すのだろうか）」であったが、その受賞理由が全く分からない。あまりにもくだらなさすぎて見直す気もなく、理解不足かもしれないが、なぜこんな駄作がオスカーを手にするのだろうか。映画の生命はストーリー展開である、ということは今も昔も変わらないだろう。ところがこれにはまともなストーリーがない（としか思えない）。また、何らかの感動があつてこそその映画である。「カンフー物」や「マトリックス」がいつしよになったようなアクションの連続で、ドタバタ映画以外の何物でもなく感動のかけらもない。まあ、気にすることはない。映画の良さは自分で感じるものであり、世間の意見や評論は気にすることはない。過去の名作はたくさんあり、たとえこれからの映画が駄作ばかりになったとしても何も問題ない。もう一度見たい作品は、死ぬまでに見切れないほどたくさんある。

10回という目標を立てて毎年投稿させていただいていたが、遂に9回となりあと1回を残すのみとなった。長っ

たらしい映画鑑賞感想文であり、嫌悪感を抱いている方もいらっしやるだろうが、「読んでますよ」と評価していただく声もちらほら聞こえてくるようになった。へたくそな文章だが、是非この映画を見て感動してもらいたい、という思いでそれなりに力を入れて書いている。もちろんタイトル通り独断と偏見の塊だが、紹介する映画を見て共感いただければこの上なく幸せである。

映画にはさまざまなジャンルがあるが「正義」に関する映画が大好きである。一方、正義どころかそんなことを考えることもできないどん底環境の中でのたうち回る、どうしようもなく暗い映画も好きである。共に強く心を揺さ振られるからである。今回紹介する洋画は、学校という狭い環境の中で周りの抵抗に抗いながらも自分の教育方針を押し通すが、遂には挫折し、学校を追い出されてしまう正義感あふれる教師の物語。冒頭に触れたアカデミー賞に対する違和感、つまり権威に逆らっても正直に自分の考えを持つ態度にもつながる。そして邦画は、閉鎖的な貧しい山村社会の中で、逃げ出すこともできなく絶望的な生活を強いられる人々の物語である。そして両作品とも、人間としてどうしても避けられない「死」が大きなテーマとなっている。

今夏の同窓会総会の後、同期の坪内君に徳島市まで送ってもらったが、彼は歴史や民俗学に詳しい。車中でいろいろ話したこともこの映画評に反映させてもらっている。

「いまを生きる」1989年

ピーター・ワイアー監督 ロビン・ウィリアムズ

キリスト教がしっかりと根を張った、アメリカの保守的な男子学校が舞台である。大学進学率の高い、歴史ある名門の全寮制学校であり、そこに赴任してきた文学教師キー

ティングとその生徒たちとの感動的な物語である。映画は新学期の始業式から始まるが、「伝統、名誉、規律、美德」という学校の理念が全員で唱和され、これら堅苦しいしほりを若い力で打ち破っていく映画なのかな、と予想がつく。この世代の全寮制男子学校は、実は高専と同じである（今は女子学生も多いが）。60年も前になるが、私自身高専を受験した理由は、新しい学校制度の魅力もさることながら、寮生活へのあこがれが第一であった。もちろん2期生であったため歴史や伝統は全くない。一個上の先輩たちは、何もかもこれから創っていかなければならない、という使命感で燃えているように見えた。15～20歳という最も多感で成長の早い時期に、仲間と生活すべてを共にしたさまざまな経験は忘れることができない。予想通り、映画の中の若さ溢れる生徒たちは学校の方針や厳しい規律とは真逆の生活態度で、自由奔放である。家庭から離れているので好きなことができる。もちろん本分である授業の勉強会も自主的に行うが、校則も破るし、グラマー女性のヌード写真も隠し持ち、同世代の女性に憧れ恋もする。思い返してみれば我々寮生も似たような生活だったなあ、と懐かしく思い出される。

新学期の雑踏の中でニールは付き添ってきた父親に言われる。「学業に関係のない学校年鑑作成の担当はやめろ」と。厳格な父親の命令である。また、自分の将来をおもんばかっていたの忠告だろう、といやいやながら承諾する。この態度が最後にとんでもない悲劇を呼ぶ伏線になっている。こういった状況の中で新任教師キーティングが登場する。

彼の教える科目は「詩」である。その教育方法がまさに型破りであり、かつ納得感満載で実に面白い。学校の教育理念でもある伝統や規律を一切無視し、個人の感動を中心とした芸術の本質を熱っぽく教えるのである。第1回目の授業で、彼は誰かの詩の一節である「バラの蕾は早く摘め」の理由を生徒たちに問う。誰も答えられない。彼は言う。「人は死ぬからだ。我々は必ず死ぬ。いつ死ぬか分からない。だから今日を懸命に生きろ。そのことを詩人は心の底から訴えているのだ。」と。「Seize the day」まさに邦題そのものである。冒頭から「死」という重いテーマがのしかかってきて、このことが最後の悲劇の伏線となっている。次の授業では、形式を重視する詩の概論なんてくそくらえ、と教科書の序文を破り捨てさせる。こういった独特の授業シーンが様々な形で何度も繰り返される。そのたびに新鮮な気持ちにさせられる。形なんてどうでもいい、ただ思ったことを素直に表現すればいいんだ、ということが何度も教えられるのである。このことは一歩進めて考えると、思ったことはあれこれ考えず、感じたままを素直に表現しよう、ということにつながらないだろうか。バチカンにあるミケランジェロの大理石彫刻「ピエタ像」を初めて見た時は、本当に美しいと思いきから感動した。ダビンチを始めとする巨匠たちの絵画も素直に素晴らしいと思う。ところが、正直な話、有名な絵画でも「どこがいいんだ

ろう」と首をかしげる作品もたくさんある。たとえばピカソの「ゲルニカ」。世界中の人が「素晴らしい絵だ」と絶賛するが、私には到底そうとは思えない。感じ方は人それぞれであり、別にそういう人々を非難するわけではないが、反戦思想は共感するにしても、絵のレベルは決して高いとは思えず、従ってそれほどの感動もない。スペインでオリジナルも見たが、ただ大きいだけで子供の書いた落書きとしか思えない。要するに数学や物理と違って芸術作品は感情の産物だから、絶対的な万人共通の価値観はあるはずがない。さらに例をあげる。茶道や生け花の価値基準は何なのかさっぱり分からない。いびつな形をしたどこにでも転がっているような茶碗の価値とはいったい何なのか。銀座の歌舞伎座で本物の歌舞伎もじっくり見てみたが、学芸会の方がまだましと思う。もちろん私の個人的判断であり、他の人の価値観を責めるつもりもさらさらない。ただ、一部の権威ある人々の評価を無条件に認めていないか、ということをお願いなのである。本当に本心からそう思っているのか、実は裸なのに、きれいなお召し物です、と周りの言葉に合わせて言うてはいないか、と。話を元に戻そう。さらにキーティングは、事実を見極めるためには視点を変えることが必要、見えない部分が見えるから、とも説く。実感させるために靴を履いたまま机の上に立ち、生徒たちも立たせる。景色が変わる、常識の殻を破れ、と熱く語る。ニールと寮で同室のトッドは、引込み思案で詩など全く書けない、と諦めていたが、キーティングの恐るべき授業は遂にトッドの心を開いてしまう。この場面も印象深い。是非楽しんでほしい。こんな熱血教師に若人が感動しないはずがない。屋外授業でサッカーを楽しむ場面のバックにはベートーベン第九の合唱が響き渡る。

一方、ニールはキーティングがこの学校の卒業生ということを知り、学校年鑑の担当をしていたこともあり、当時の資料を探し出す。なんと彼は「死せる詩人の会」という組織を結成し、深夜に寮を抜け出し、暗い洞窟で過去の詩人の詩を朗読していたのである。実はこの映画のオリジナルタイトルは「Dead Poets Society」である（ずっと「Seize the day」がそれとと思っていたが初めて分かった）。にもかかわらず邦題を「いまを生きる」とした翻訳者の心意気を感じる。こちらの方がずっといい。なぜか「今」ではなく、ひらがなの「いま」を当てているが理由は分からない。ニールの主導で「死せる詩人の会」を再開し、秘密裏に回を重ねるにしたがって、自分の思いを大切にしよう、という気持ちもどんどん膨らみ、ニールは演劇のすばらしさに目覚める。また別のメンバーは恋人への思いが次第にエスカレートして止まらない。共に若さあつての素直な心の成長だろう。また寮生活の思い出に戻るが、様々な同級生がいた。T君は詩人だった。私よりかなり早熟だったようで、「銀頭弾（シルバー・ポイント）」（だったと思う）という個人詩集を綴っていた。女性を想う詩がたくさん書かれていたような記憶がある。M君は入学した時には

人前でしゃべることに苦労していた。ところが落語研究会に所属し、見事にハンディを克服し、卒業後歌舞伎役者になった。彼は「国が敷いてくれたレールを自ら離れた」と言っていたが、「思い通りの人生だった」とも言っており満足ようである。この映画のトッドと重なる。さらにY君やN君も演劇に没頭していた。私は音楽が好きで、今では見る影もなくなったが「労音」という組織に入り音楽演奏会普及活動に力を入れたが、彼らは「労演」で活動していたように思う。Y君は落研にも入っており、徳島の文化センターでの公演も成功させ徳島新聞で大きく報道されていた。その時、彼のお父さんから「落語なんてやっているのなら学校もやめてしまえ」と叱られた、という話も聞いたことがある。完全にニールの置かれた状況と重なる。F君は「世の中のクラシック音楽をすべて聴きたい」と、いつも、放送が始まったばかりのNHKFM放送を聴いていた。もう一人のF君も音楽マニアで、高価だったソニーのFMラジオとステレオアダプタを買ってきた。受信電波の強い寮の寝室の窓際に集まり、当時はまだ珍しかったFMステレオ放送をみんなで楽しんだ。「死せる詩人の会」とは較べるべくもないが、似たような仲間内の秘密の楽しみであった。映画の中でも、勉強中にこっそりと隠れてラジオを組み立て、音楽を求める寮生もいた。変わったところでは宗教活動にのめり込んでいたK君もいた。熱心な勧誘を受け、私も理解しようと努力したが、結局信じることはできず明確に断った。悲しい思いをさせたかもしれないが、偽の信者になるわけにはいかない。次々と寮生活の思い出が浮かぶ。確かにみんな若かった。すべて私の個人的な思い出であるが、間違っていたり、もし不快な思いをさせた

のならご容赦ください。

さて、演劇に目覚めたニールはますますのめり込み、地域の劇団の主演を演じることになる。ニールにとっては最高の流れだが、そこに頑固おやじの「演劇など許さない」という横やりが入る。両親の希望に応えたいという気持ちもあるが、一方では演劇も絶対にやめたくない。この葛藤がこの映画の山場である。結局、父親の壁は乗り越えることができない。感受性が強く、物事をまじめに考えるがゆえに、彼には、命を絶つという最悪の結果しか残されていなかった。親の勝手な思いがいかにかに子供を不幸にするか、という警告も含まれているのだろうが、ことはそれほど単純ではない。子の親となり、さらに孫も大きくなった今、この父親の気持ちは痛いほどよく理解できる。息子はまだ世間のことを知らない、親が導いてやらなければならない、という気持ちは決して間違っていない。だが、最悪の結末を迎えてしまう。この、何ともしがたい思いは是非映画を見ながら感じてほしい。入学後まもなく自殺した同級生が思い出される。早朝寮を抜け出し、麻酔薬を飲んで当時の阿波富岡駅と見能林駅の間大きくカーブした見通しの悪い鉄道レールの上に寝ていたという。何を悩んでいたのだろうか。今もって理由は分からない。当然彼の名前は卒業生名簿にはない。

ニールの事件は当然学校にとっても大問題である。伝統、歴史、規律を重んじる学校の保守性は異常であるが、そこには生徒たちの将来を考える要素は全くなく、ニールの父親の頑固さとは全く違う。結局、すべての原因はキーティングの教育方針にあった、と結論づけられ、彼は学校を去ることになる。若さに溢れた生徒たちと同様、彼も実に若

よるず
伝言板

悠久同窓会ホームページのお知らせ

昨年度より、悠久同窓会ホームページを開設しました。

各支部のご案内、刊行物（同窓会誌）の閲覧、お知らせなどのコンテンツを用意しております。まだ作成途中ではありますが、今後、卒業生の皆様に情報発信していく予定です。是非ご覧ください。

<https://yukyu-dosokai.com/>

【阿南高専 HP「悠久同窓会」ページにもリンクを設定しています】

悠久同窓会ホームページには、同窓会誌「悠久」のPDFデータを掲載しています。

バックナンバーも含め、WEB上でいつでも「悠久」をご覧いただくことができます。

今後、冊子で「悠久」の送付を希望されない方は、同窓会事務局までメールでお知らせいただくか、下記QRコードを読み込み、必要事項を入力してください。

悠久同窓会事務局メール

dosokai@anan-nct.ac.jp

卒業回（卒業年）、所属学科（コース）、お名前と「悠久の冊子送付は不要」の旨ご連絡ください。

悠久同窓会連絡フォーム

悠久冊子送付不要の連絡ほか、住所変更、その他お問い合わせなども、こちらのフォームからご連絡可能です。QRコードを読み取ってください。

